第３回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立市岡高等学校
校長名	辻本　利勝

開催日時	令和６年２月６日(火)16:00~
開催場所	大阪府立市岡高等学校　２階　会議室
出席者(委員)	深野康久会長、岸野圭吾委員、中田昌彦委員、 木村幹彦委員、前川勝則委員
出席者(学校)	辻本利勝校長、島和広教頭、河村未来首席、島田浩史教諭、江原祥太教諭 広瀬紳之介教諭、大同昌美教諭
協議資料	・令和５年度　学校教育自己診断 ・令和５年度　学校経営計画及び学校評価（案） ・令和６年度　学校経営計画及び学校評価（案）

議題等

(1) 学校長あいさつ

(2) 確認・報告事項

①76 期（3 年次）進路状況

(3) 協議

①「令和５年度　学校教育自己診断」結果について

②「令和５年度　学校経営計画及び学校評価」について

③「令和６年度　学校経営計画及び学校評価」について

④その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

(2)確認・報告事項

①76 期（3 年次）進路状況報告（令和６年１月末現在）

・指定校制推薦入試合格者 12 名

・公募制推薦入試合格者３３６名（延べ数）

・推薦入試進学決定者 56 名（国公立大２名含む）　学年全体の 20%

・共通テスト受験者 161 名（国公立大出願者 45 名）

(3)協議

①「令和５年度　学校教育自己診断」結果について　（《　》内は、自己診断アンケートの問）

・《生徒用問 15》「私は部活動などの自主活動に積極的に取り組んでいる。」

《保護者用問 19》「体育祭や文化祭などの学校行事、PTA 活動に積極的に参加している。」

《教員用問 23》「教職員の適性･能力に応じた校内人事がなされ､業務が公平に分担されている。」

→質問の聞き方を変更した部分があるため、数値が低くなっている。

・全体的に他校に比べて肯定的数値が高い。問い方を変えても高い数値のため、良い傾向にある。

・《生徒用問５》「先生は一人一台端末を効果的に活用している。」
《生徒用問 20》「地域や小中学校との交流やボランティア活動などに参加する機会がある。」
→改善の余地あり。今後の課題である。
・《教員用 16》「いじめを含め生徒の問題行動が生起した際の体制が整っており、組織的に迅速な対応ができている。」
→生徒指導事案について、当該生徒に慎重に聞き取りを行っているため、対応している教員以外の教員から見るとスムーズでないように見えているからと思われる。

②「令和５年度　学校経営計画及び学校評価」について
・授業アンケート学校平均値 3.41。
→例年通り、高い数値をキープできている。
・4 月の時点で授業中に生徒一人 1 台の Chromebook を利用する授業はほとんどなかった。
教員向けに Classroom の活用研修を実施することにより、少しずつではあるが授業中に活用する授業が増えてきている。生徒連絡や課題配信に関しては、Classroom で実施できている。
・年間 30 日以上の欠席者、年々増加傾向にある。
中学校から不登校傾向にある生徒が一定数存在し、長欠になる生徒が年々増加している。
→一般企業でも、はっきりとした理由はなく、なんとなく辞める若者が多い。
転学・退学が多くなってきている事象については、学校だけで解決できない問題ではないかと感じる。
・《生徒用 16》「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」84.6%
→支援体制を高く評価されている。
・SC の活用や外部機関との連携、担任が保護者連絡や家庭訪問を行い、保護者とのコミュニケーションを十分にとっているが、通信制高校へ転学や退学する生徒が増加している。
来年度は SSW（スクールソーシャルワーカー）を活用し、より一層支援体制を充実させる。
→4 年かかっても市岡高校を卒業した方が、将来的にメリットが多いと思う。3 年で卒業できないからといって定時制に転学や退学はもったいない。こういう手立てがあると示せたら良いのではないか。
→4 年以上かかる生徒に対応できる制度だが、単位制になってから 4 年で卒業した生徒は数名。
→最近の傾向は、大学受験でも同じ傾向あり。行けるところに行く。浪人はしない。
就職まで考えずに、早く行き先を決めたがる保護者が多い。最後まで粘り強く勉強して受験しようという指導がなかなか伝わらない傾向にある。
・遅刻者は、1 日 8 人以上。少し多い。生徒指導部中心に指導していく。
・部活動などの自主活動への取り組み 95.3%。部活動加入率 83.5%。
→部活動や課外活動に積極的にとりくむことができる生徒多い。
・総合的な探究の時間の充実度、毎回高い。目標数値大きくアップしている。
→実施内容が充実している証拠。
→学年ごとに年間スケジュール内容がしっかり立てられている。
・地域交流やボランティア活動への参加は、ほとんどない。次年度以降の課題である。

③「令和６年度　学校経営計画及び学校評価」について
今までのものを参考に、より分かりやすく具体的に大幅改定した。
・めざす学校像
はっきりとした目標に設定
・中期的目標
項目変更。
１「確かな学力」の育成、
２「自主性・自律性」の醸成、
３組織力の向上と「働き方改革」

１「確かな学力」の育成
（１）
・教育産業と連携した学力分析システムを今まで以上に効果的に活用し、教員の進学指導を向上させる。
（３）
・生徒が自学自習する習慣を身に付けるため、学習環境（自学自習スペース）の整備を行う。

２「自主性・自律性」の醸成
（３）
・来年度から SSW を導入する。SC・SSW の積極的な活用を行い、教育相談・生徒支援体制を充実させ、外部の専門機関と組織的につながる体制を整える。

３組織力の向上と「働き方改革」
（２）
・業務内容の精選、効率化、平準化を図り、働き方改革を推進する。

④その他
・一般企業は、ボランティア活動を通じて様々な経験をし、視野の広い人材を育成している。
ボランティア活動を行うことにより、人間的に大きく成長させることができる。
自分で課題を見つけ動ける、広い視野を身に付けた人材育成のために、色々と経験できる機会を与えることが重要。
・「総合的な探究の授業」で、新たな取り組みをするのではなく、今までの内容で、これは何のためにやっているのか、社会や自分のためにどんなプラスになるのか、という意識づけをしっかり行なえば、気づきや課題発見につながる。また非認知能力を育てることにつながり、粘り強く勉強に向かわせることができるのではないか。